

ハイキング散策の会

小豆島編

2020年2月4日からのハイキング散策の会のイベントは2泊3日の小豆島及びしまなみ海道の旅であった。天気にも恵まれ素晴らしい旅行であった。自分は、広島県の三原市に居たことがあり、瀬戸内海の島々、尾道、今治、並びに松山等思い出というか思い入れがあり、ノスタルジアの旅でもあった。とりわけ、小豆島は壺井栄の代表作“二十四の瞳”の島でもあり、岬の分教場は当時の面影が偲ばれる印象深い場所であった。

第1日目 2月4日(火曜)

羽田空港(09:45発 ANA-533) - ✈️ - 高松空港 - 🚗 - 高松港 - 🚢 - 瀬戸内海遊覧 - 小豆島 - 🚗 - エンジェルロード - オリーブ園 - 🚗 - 岬の分教場 - 🚗 - 番の郷 - 🚗 - 小豆島温泉・ベイリゾートホテル小豆島



羽田空港から高松空港まで約80分。晴天の高松空港に到着。



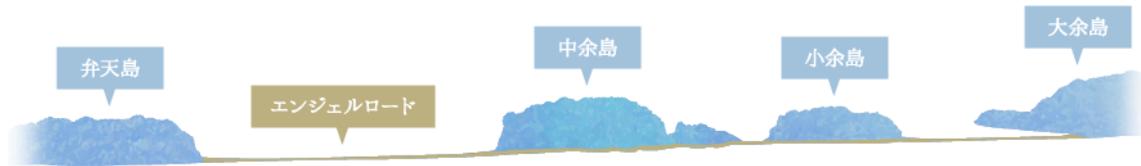
高松港からフェリーで草壁港へ。約60分の船旅であった。

小豆島観光



とのしょうちよう
小豆島は香川県に属し、小豆島町、土庄町の2町からなり、人口は29000人弱。瀬戸内海では2番目に大きい島である。小豆島は、どこから見てもオーシャンビューでその景観は“瀬戸内の地中海”とも呼ばれている。日本書紀にも記載があるほど歴史は古い。大阪城の石垣の一部の石は小豆島から切り出されたものと言われる。

エンジェルロード



潮が引くと現れるエンジェルロード(天使の散歩道)。南側の小島“弁天島”から砂浜で繋がる4つの島を総称して“余島”と呼び、この連なる4つの島には、1日2回の引き潮の時だけ砂浜の道が現れる。



小豆島オリーブ園



1917年に、西村の地に植樹されたオリーブは樹齢100年超。オリーブの原木の森は、見ごたえのあるものであった。



ミモザの花も咲き始めていた



小豆島オリーブ園は、イサム・ノグチの遊具彫刻などを楽しめる観光農園となっている。



イサム・ノグチ (Isamu Noguchi、日本名：野口 勇、1904年11月17日 - 1988年12月30日) は、アメリカ合衆国ロサンゼルス生まれの彫刻家、画家、インテリアデザイナー、造園家・作庭家、舞台芸術家。日系アメリカ人。父親が日本人 (愛知県生まれの日本の詩人で慶應義塾大学教授の野口米次郎) で母親がアメリカ人 (アメリカの作家で教師のレオニー・ギルモア)。ノグチは慶應義塾三田キャンパスにノグチガーデンなど幾つかの作品を残している。



慶應三田キャンパスの作品“無” 新萬來舎

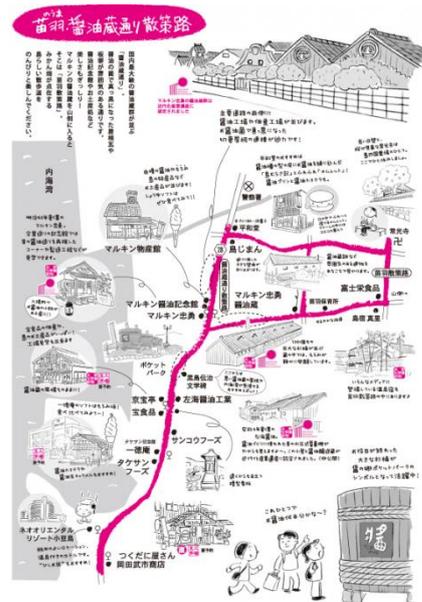


ノグチガーデン

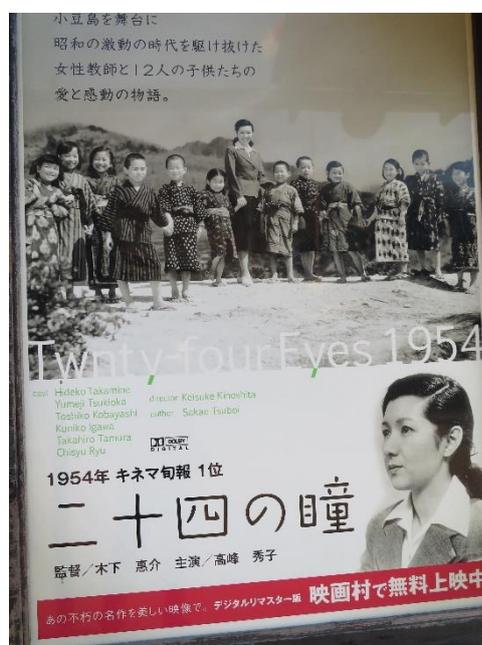
ひしおのさと
醬の郷

小豆島は約 400 年の伝統を誇る醤油製造である。醬の郷は、小豆島町にある近代以前の醤油蔵建築が集積する醤油蔵通り及び苗羽地区並びに馬木地区の散策路から成る地域の名称である。

「二十四の瞳」の壺井栄の父親は、腕のよい醤油の樽職人であった。



岬の分教場



二十四の瞳について

この物語は、昭和初期から終戦直後にいたるまでの小豆島が舞台である。この作品には、幾つかの感動的場面があるが、前半の山場は、アキレス腱を痛め欠勤した大石先生を、7歳前後の小学校1年生12人全員が、誰とも相談せず、自らの判断で2里(8km)も離れた大石先生の自宅まで、徒歩で、見舞いに行くところである。この行動により、古い習慣のままの生活を続ける島の人たちは大石先生との距離を縮め、信頼関係が構築されるのである。後半の山場は、終戦後、再び大石先生が、岬の分校の先生になり、小学校1年生であった教え子が、大石先生を困んで同窓会を開催するところであろう。この作品は、昭和初期における小豆島における貧しく素朴な庶民生活、そして戦争という状況をはさんで、教え子がそれぞれ成長していく様を描いた傑作である。

「二十四の瞳」の舞台となった分教場。1971年まで田浦分校として実際に使われていた分教場である。





ピアノや木の三角定規、大きなソロバンなどが当時のまま展示されていた。当時の生徒の作品も一部そのまま飾られていた。



どこか懐かしさを感じさせてくれる「二十四の瞳」の世界を描いたイラストが切手になりました。思い出の中にあるような、あたたかくやさしい風景は、手にする人の心をやさしく包んでくれることでしょう。

二十四の瞳

MEMORIAL
STAMP
SHEET



- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。

凸版印刷株式会社製



壺井栄について

小説家であり、児童文学作家でもある。

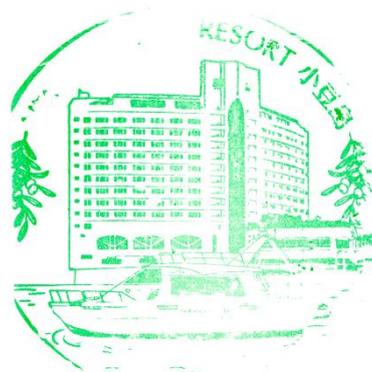


明治 32 年(1899 年)8 月 5 日、香川県小豆郡坂手村に醤油樽職人の岩井藤吉の五女として生まれる。蔵元が倒産したことで父が失職して経済状態が悪くなり他家の子守りをし、日銭を稼ぐなどの苦労を重ねるが、坂手小学校、内海高等小学校を卒業する。作風は、二十四の瞳の文体がそうであるように、気取らず、分かりやすく、人間同士の温かみのあるのが特徴である。壺井栄は昭和 42 年(1967 年)に 68 歳で亡くなっている。小豆島内海町(現小豆島町)では、彼女に名誉町民の称号を贈り、その功績を称えている。

壺井栄は、二十四の瞳の中で、この島の生活について「そのどの家もめいめいの商売だけでは暮らしがたたず、百姓もしていれば、片手間には漁師もやっている。だれもかれも寸暇を惜しんで働かねば暮らしのたたぬ村、だが、だれもかれも働くことを厭わぬ人たちである…」と記している。

ベイリゾートホテル小豆島

第 1 日目に宿泊するホテルである。すべての部屋から海の素晴らしい景色が見え、最上階に天然温泉がある素晴らしいホテルであった。



第2日目 2月5日(水曜)

小豆島温泉- 🗨️ -寒霞溪（ロープウェイで空中散歩）- 🗨️ -宝生院（樹齢約1,500年以上のシンパクを見物）- 🗨️ -土庄港・平和の群像-

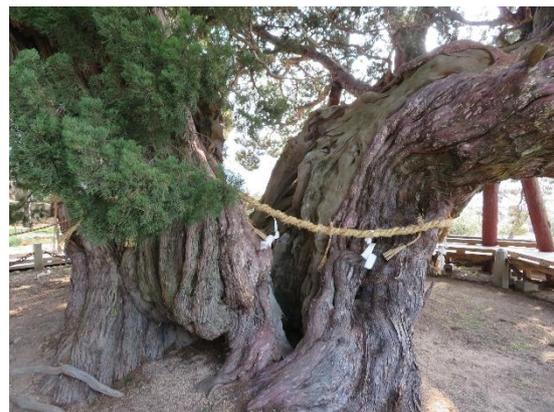
寒霞溪展望台

山頂駅付近に2ヶ所展望台があり、ここから眺める渓谷は絶景。眼下に広がる内海湾、瀬戸内海、その向こうに見えるはずの四国の山並みはかすんでいた。



宝生院のシンパク

小豆島八十八ヶ所霊場の1つ、宝生院の境内にある真柏（シンパク）の大樹。国指定の特別天然記念物である。応神天皇の手植えによるものと伝えられ、樹齢は1500年以上。幹の周囲が16.6mある。





世界一狭い海峡



土庄港・平和の群像

とのしょうこう
土庄港



土庄港のシンボリックなモニュメント「太陽の贈り物」。高速艇ターミナルのすぐ近くにある。対岸の工場はかどや製油のごま油工場。

平和の群像



『二十四の瞳』の大石先生と12名の生徒をモデルにした群像。香川県丸亀市出身の彫塑家 矢野秀徳の作。題字の揮毫は鳩山一郎で、像の正面に「平和の群像 内閣総理大臣 鳩山一郎」と書かれている。

